

保育施設 基本情報

園・施設名	フロンティアキッズ上馬
経営主体	株式会社フューチャーフロンティアーズ
所在地	東京都世田谷区上馬2-29-16 ワイスハイムII-1階
定員	0歳：6名、1歳：6名、2歳：6名、3歳：6名、4歳：5名、5歳：11名 計40名
理事長名	代表取締役 橋本恵理
園長名	伊藤由子
採用担当者	野部久美子 市川雄一 松尾隆浩
電話番号	フロンティアキッズ上馬：03-3410-2388 事業者本部：03-5579-8155
保育理念 保育方針 保育目標	<p>(保育理念) 子どもの未来を創造するという観点から、子育てのインフラを整備し、子どもの健全な育成と、親の子育てと仕事の両立を目指す。</p> <p>(保育方針) 保育所保育指針とモンテッソーリ教育メソッドに基づいたプログラムにより、子どもの可能性と未来を広げる。</p> <p>(保育目標) ①心身ともに健康な身体作り ②創造力と知性の育み ③愛情深い豊かな心の育み ④自分で考え自ら意欲を持って行動できる自立心の育み</p>
保育環境	<p>東京都世田谷区、東急田園都市線三軒茶屋駅より徒歩10分の住宅地に位置する保育園です。 2011年4月に東京都認証保育所として開所し、2020年4月に認可保育所に移行しました。 東京の都市部に位置するため園庭はありませんが、近くに公園や緑道も豊富に存在し、近隣には畑も借りて、自然と触れ合う機会も多く持っています。 定員40名前後の保育園ですが、職員みんなが子どもみんなにかかわることのできるちょうどよい規模だとも思います。</p>
ホームページURL	https://www.futurefrontiers.co.jp/
事前質問	《保育の質》についてのお考えをお聞かせください。
	「子どもたちに内在する生きる力がのびのびと発揮できるよう、相応しい環境を整え援助する」ことが私たちのミッションです。 それぞれの子どもの発達段階や家庭環境(生活時間)などに十分に配慮し、安全で安心して過ごせることを大前提とした上で、それぞれの興味関心や発達目標に応じた活動を十分に自発的に進める環境を整備することを基本方針としています。また、保護者や家庭の支援も保育園の重要な役割の一つであることから、子どもの情報の共有も含め、より良い信頼関係が築けるよう工夫しています。 その上で、長時間保育の中で切れ目なく援助していくためには、保育従事者のみならず調理職員や看護師も含め、組織全体での情報交換や連携を密に行っていくことが必要不可欠です。 研修や勉強会などを通じてスキルアップを図ることはもちろんですが、職員自身が心身ともに健康な状態で意欲的に業務にあたるよう、それを支えるための労働環境の整備も「保育の質」を担保するための重要な側面だと考えています。
	「保育の質」の向上のために取り組んでおられることについて、具体的にご紹介ください。
	当園はモンテッソーリ教育を取り入れており、モンテッソーリ教育の教員免許保持者による園内での勉強会を定期的におこなっていますが、ただ知識や技術をトップダウンで下ろすだけではなく、一人一人の保育者が主体的に考え、時にはメソッドに疑問を持つことも受け入れながら、モンテッソーリ教育においてはどのように捉えるのか、どうすればブラッシュアップしていけるかを検討できる機会であるように心がけています。また、「保育の質」という言葉は今日先の子どもたちにも正解としてあらわれるものではなく、常に問いかけていかなければならないものだと思いますので、毎日の昼礼の報告事項の中からも、なにが「子どもの最善の利益」なのかを考える癖をつけるようにしています。
	学生の就活において「職員同士の人間関係」が重視されていることについて、お考えをお聞かせください。
	職場の人間関係の良しあしが労働に対するモチベーションや精神衛生上にも影響することはもちろんですが、さらに保育という現場において考えると、目の前の子どもに対するより良い環境の構築がなされるべきと考えます。 子どもたちにとって自分の身近な環境は自身の未来の手本であり、「幸せな大人」になるための要因として捉えるため、身近な大人の振る舞いが子どもたちの行動や思考にも影響を及ぼします。例えば複数のクラス担任同士がいがみ合い、信頼しあう努力をしていなければ、子どもはそれが自分の未来である大人の姿だと学んでしまう危険があるからです。モンテッソーリ教育では「子どもに学ぶ」という言葉がありますが、もし目のまえの子どもたちが落ち着かないのであれば、それは保育者が落ち着いていないからだし、仲間外れをしているのであれば保育者自身がそうしているからだとということに他ならないということですが、これが就活における「職員同士の人間関係を重視する」ということにもつながると考えます。
	乳幼児期における「子どもと保育者の望ましい関係」についてのお考えをお聞かせください。 また、そのような関係を築く上で大切にしていること、実践していることを具体的に教えてください。
	一番大切なことは「子どもをひとりの人間として尊重しかかわる」ことだと思います。できない存在、理解していない存在として扱うのではなく、保育者は「できないことのみをお手伝いする」だけであり、子どものできることは子どもに任せ、分からないからと言って適当なことをいうことなく、自分がされて嫌であろうことは子どもにもしないということが一番大切だと思います。そして、それを実現するためには、「(一般論としても一人一人に対して)子どもの発達をきちんと把握し、環境設定を含め子どもにかかわる」ということがまず何よりも欠かせない大切なことだと思います。
	生活習慣の自立に向けた援助や関わりで大切にしていることについて、簡単な事例を基にご紹介ください。
	生活習慣の自立は親や保育者を喜ばせるためにおこなうものではなく、子ども自身の「自分でできた」という自信や「自分は信じてもらえている」という自己肯定感の獲得が伴わなければ、単なる大人の自己満足だと考えます。そのために必要なことは一人一人の子どもの発達の違いや欲求を見極めることであり、それは当然にして異なるものなので、例えば「夏に一気にトレイルトレーニング」というような考えかたはするべきではないということを常に念頭に置くようにしています。事例として、特に早生まれの子の保護者が高月齢児と比べて、まだできていないと相談されることが多くありますが、月齢に応じた発達の目安および本児の心の育ちを含む発達の度合い、そして今何が必要なのかということをお話しし、比べるべきは他の子どもではなく「昨日のその子」と比べてくださいとお伝えするようにしています。
学生へのメッセージ	<p>保育の仕事はゴールの見えない仕事でもあります。また、子どもを取り巻く環境は日々変化していくので、なにが今の子どもたちの最善の利益なのかを考えながら向き合っていくには、とにかく勉強し続ける姿勢が欠かせないと思います。ただその努力は、子どもたちの成長を目の当たりにすることによって報われると常に思います。そして、このコロナ禍で東京の保育園では休園することもありましたが、それにより社会生活が停滞することが認識され、その重要性が単に子どもを預かるというだけでなく、子どもの成長にとって、また健全な家庭のあり方にとって重要だと改めて認知されたことは、怪我の功名かもしれませんが誇らしいことでもありました。その道を志してくださることをとても嬉しく、そして光栄に思います。</p>